



皇居一般参賀で振られる国旗



### 国旗掲揚のすすめ

三石神社 宮司 小林友博

師走の候、氏子崇敬者の皆様におかれましては、ご健勝にてご活躍のこととご同慶に存じます。又、年頭の正月より一年間各種神事行事に対しましてご崇敬ご奉獻を賜り厚く御礼申し上げます。

さて、本年八月に、中国で日本国旗略奪事件が発生した。そこで「国旗」に関して述べさせて頂きます。日本の国旗を法律では「日章旗」とし、一般的に「日の丸」と呼んでいる。歴史的には、飛鳥時代の聖徳太子が遣隋使に託した手紙に「日出づるところの天子」とあるのが太陽を象った図柄の基となったとするが、太陽を象った旗の原型は文武天皇大宝元（七〇二）年正月の朝賀の儀の際に「左に日像、右に月像を陳列す」との記事を初見とする（『続日本紀』）。その後、文献（『平家物語』源平合戦の扇的的の条）の「日輪」や戦国時代の武将が日の丸の将旗を陣地に掲げたり、豊臣秀吉の朝鮮出兵の際の船印、さらに江戸時代の朱印船にも用いられたが、日の丸が国旗という認識はまだなかった。

江戸末期の嘉永六（一八五三）年、ペリー艦隊の黒船来航により、薩摩藩の島津斉彬公の、外国船と区別する日本船の船印の必要性が提言され、「日の丸」が初めて正式の総船印となったが、国旗というより幕府の旗であった。万延元（一八六〇）年、日米修好通商条約批准書交換のために幕府使節団がニューヨークを訪問したとき、ブロードウェイ通りに日の丸が掲げられたのを外国での国旗掲示の始めとされている。

後の明治新政府は明治三（一八七〇）年一月、太政官布告で日の丸を「御国旗之事」と記し正式に国旗とした。しかし明治十八（一八八五）年に太政官制が廃止となり、法令も存在しなくなり国旗の法的裏付けがないまま終戦（昭和二十年）を迎え、連合軍総司令部（GHQ）の指令により国旗の掲揚は許可申請が必要となっ

発行所  
三石神社社務所  
神戸市兵庫区  
和田宮通3丁目2-51  
TEL (078)671-2531  
FAX (078)671-7667  
E-mail info@mitsuishi.or.jp  
URL http://mitsuishi.or.jp

- ご家庭・会社事務所に神棚を祀りましょう。
- お伊勢さんのお神札（神宮大麻）と三石さんのお神札を合せ奉斎しましょう。
- ご神札は、毎年末もしくは新年に新しく改めてお祀りしましょう。

た。昭和二十二(一九四七)年五月の日本国憲法施行の前日に国旗の掲揚が許可されたが、国会議事堂・皇居・最高裁判所・首相官邸の四ヶ所のみであった。翌年に特定の場所・特定の日・国民の祝日には申請なしに国旗を掲げてもよいとされたが、国民の拘束された国旗掲揚への不満も高まり、ついに昭和二十四(一九四九)年一月のGHQの年頭メッセージにより「日の丸の国旗掲揚は無制限に自由に掲げてよい」こととなった。

国民の国旗掲揚は自由になり、「国旗」の文字も既に各法律文にも使用され、また慣習として存在したが、正式な国旗法はなく法的根拠も弱く、また、反日の丸革新勢力も根強かったところの、平成十一(一九九九)年二月、広島県立世羅高校の卒業式で国旗掲揚と君が代斉唱を反対する組合(高教組)等とのトラブルによつて校長が自殺する事件が発生した。この事件を重く見た小渕内閣は同年八月、「日の丸」を国旗とし、「君が代」を国歌と定める「国旗・国歌法」を成立させ、「国旗は日章旗とする」が明記され現在に至っている。「日の丸」は既に千年近い歴史を持っており、日本国旗として定められ国旗・国歌などという問題はないと思っていたが、正式な「国旗・国歌法」制定後、まだ十三年しか経過していないことに驚きを感じる。

ところで、本年八月下旬に中国北京で丹羽駐中国大使の乗った公用車が中国人に襲われ、日本国旗が奪われる事件が発生した。大使は日本国・日本国民の代表として中国に駐在し閣下と敬称され、その公邸は日本国家の主権の及ぶ治外法権敷地内で、その象徴として日本国旗が翻っている。公用車も例外ではない。国旗が奪われることは国権が踏みにじられたことを意味する。国旗はその国を代表する象徴で、国の独立と主権とを表しており、何人も敬意を払うのが国際人としての常識である。国旗一旗の扱いで国際紛争の勃発は過去に何度も起きている。

事件の結末として、中国は犯人に国際法上恥ずべき刑事罰を用いない処罰を行った。これすなわち、中国人が国際人の域に達していない証でもある。そして、尖閣諸島問題もあつてか、それに対する日本側の抗議もなまぬるい。逆に日本で起きた中国大使公用車襲撃事件であつたなら、「小日本」(中国は大国で、小国の日本は大国の中国に従え、文句を言うなどする意で、過去の中華思想と同意)と日本を蔑視した言葉を掲げ対日デモを策動する中国は(国の指示でデモを行わせている)、国の威信を賭けて国家侵略であると過激に抗議し、なりふり構わぬ対抗措置を繰り返すだろう。政治的駆け引きによつて相手を負かすのが、中国の伝統的な戦い方である。尖閣諸島上陸占拠もあるかもしれない。何事にも中国には毅然とした態度で接するが必要であると考え。

最後に当社の国旗掲揚であるが、祭神が皇室と深い縁ある神功皇后様である。故に神紋(家庭に家紋があるように、神様の紋)も天皇家の菊のご紋章を基本にした「裏菊」の使用が認められている。天皇は日本国憲法で日本国の象徴及び日本国民統合の象徴とされている。そこで国民は皇室を当然尊ばなければならないし、日本国民として常に国旗を大切にしなければならないのである。そのような事由により、当社は率先して常に国旗を掲揚している訳です。

本年はロンドンオリンピック、また近年の男女国際サッカーでは、その観客席に多くの国旗・日の丸が振られ日本国民を大いに熱狂させているが、スポーツの場だけでなく、せめて祝祭日には各家庭の門戸に国旗を掲揚してアイデンティティー(日本国民という認識、愛国心)を表わして頂きたいものである。

平成二十三年十一月

七五三詣祈禱齋行

十一月中、七五三詣祈禱を齋行した。

当社では七五三に当たる子供さんの玉串奉奠や、拝殿内での記念写真撮影も行い、千歳飴やおモチヤ・風船・おみやげセット等の他にキヤラクターバック等の記念品もお渡しして大変喜ばれました。

期間中の土・日・祝日には会館二階に特設写真スタジオを設け、記念写真を撮っていただけるよう設備しています。

また、お宮参りにもご連絡頂けれ



特設スタジオでの記念写真



ばスタジオを設備いたしております。

七五三詣写真 五、五〇〇円より  
初宮詣 写真 七、〇〇〇円より

平成二十三年十二月

稲荷鳥居とのぼり奉納

十七日、氏子内の浜山通三丁目で建築業を営む下山工務店より、末社である三好稲荷社の鳥居更新奉納があった。

同工務店は氏神である当社を崇敬し、社運隆昌・社員の安全祈願のため、昭和五十七年一月に稲荷神社の鳥居を奉納していたが、既に二十八年を経過し損傷も見られるようになりこの度の更新奉納となった。当日は工事に先だち鳥居更新修祓式を齋行した後、狭い場所での設置で手作業であったが、半日で組立設置が完了した。初詣の方々も新鳥居の清々しさを感じ参拝したことであろう。

さらに社名入りのぼり二十本（含ポール）の奉納も受け、新年より境内に掲げた。誠にありがとうございます。貴社の益々のご隆昌をご祈念申し上げます。



鳥居設置工事と奉納のぼり



平成二十四年一月

年頭氏子崇敬者繁栄祈願齋行

正月三日、第三十回目となる「氏子崇敬者繁栄祈願齋」が総代・氏子崇敬者三十七名の参列のもと厳かに齋行され、今年一年の各位の安寧と繁栄を祈願した。

本年の神前奉納は、関西吟詩文化協会兵庫県連合会所属の吟道隆山会長・宗範である赤木隆山先生の吟様入り「名槍日本号」吟詠に合せ神



ご神前での槍剣舞・吟詠奉納



鳥居前での記念写真

伝真正一如流  
劍詩舞道・振  
武館道場高師  
範・加藤如舟  
先生の槍剣舞  
と菊川隆玄先  
生による「富  
士山」和歌一  
首入りが吟詠  
奉納された。  
演目である  
「名槍日本号」  
は、槍と剣を  
用いての勇壯  
な剣士の舞で  
あり、又各吟  
士の朗々とし  
た吟詠に参列  
者は盛大な拍  
手を送った。  
式典後、参  
列者一同破魔  
矢を持ち、鳥  
居前にて記念  
写真を撮り直  
会に入った。



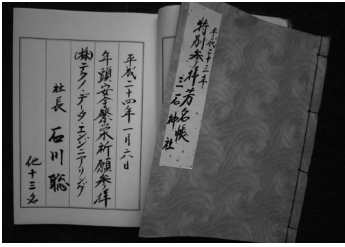
年頭安全繁栄祈願参拝



玉串拜礼する石川社長

全・商売繁昌・会社事業所安全繁栄祈願祈禱を奉仕すると共に、出張祭典として各会社奉斎の神棚前での新年守護神祭等を奉仕した。

六日、三菱重工グループで発電設備機器の過電流探傷データの分析、評価などを業務とする(株)テクノ・データ・エンジニアリングの年頭安全繁栄祈願参拝を奉仕した。



代表者が祈願署名する特別参拝芳名帳と繁栄又社員の無

年頭より

病息災等を祈願した。尚、当社では会社団体参拝等は、特別祈禱として、その代表者に「特別参拝芳名帳」に署名していただいている。この芳名帳は更にご守護あるよう一年間に亘り毎月一日の月次祭のご神前に奉奠すると共に、神社参拝記録として保存文書にしている。

平成二十四年二月

潜水艦主機関安全起動祈願参拝

二十日、潜水艦の建造を行なっている三菱重工業(株)神戸造船所の関係者二十名が、建造中の平成二十年度潜水艦「ずいりゅう」の安全祈願に参拝した。

この潜水艦は平成二十一年三月に起工、平成二十三年十月「美しくみずみずしい龍」を意味する「ずいりゅう(瑞龍)」と命名されて進水も無事に終え、この度主機関であるエンジンが、トラブルなく安全に起動するよう祈願に訪れたものである。当日は森本操艦長他、神戸船海工作部潜水艦部、MHIシーテックの代表者が玉串奉奠して安全起動を祈願した。さらに神前に奉奠し持ち帰った

清酒を主機関に注ぎ、お清めした後無事起動している。このように潜水艦建造関係者は毎艦ごとに当社を参拝し、主機関の安全起動祈願をしている。

尚、「ずいりゅう」は平成二十五年三月防衛省に引渡される予定である。

平成二十四年三月

整備事業のマンション竣工式斎行

十六日、兵庫区吉田町二丁目で浜山地区密集住宅市街地整備促進事業の、鉄筋コンクリート造十五階建店舗付共同住宅(五十二戸)である「エクスセルスカイ御崎公園」竣工式を地鎮祭同様当社が奉仕した。

事業主である(株)岡三地所が(有)プランまちさとのコンサルタントと(株)瀬戸本淳建築研究室に設計・監理を依頼し、今津・岡特別共同企業体に工事を請負わせ、平成二十二年十二月に起工地鎮祭を斎行し、無事に工事も順調に進み、美しい外装と共に充実した生活空間設備のもと全室も完売して本日の竣工を迎えた。当日は神戸市都市計画局関係者や

浜山地区まちづくり協議会会長、近隣自治会長、地権者入居者など多数の人々が参列して厳粛に斎行された。

平成二十四年四月

納骨式と五十日・忌明祭斎行

三十日、氏子である新宮家の納骨式を鶴越墓園で厳粛に斎行した後、故人の住んでいた住宅で五十日慰霊祭と忌明祭を斎行した。

故人は神道の家系で生まれ育ったが子供達二人は女子のみで既に他家に嫁ぎ、妻にも先立たれて一人暮らしの処、去る三月中旬八十五歳で帰幽された。故人の遠縁親族は九州に健在であるが、故人は神道家を継承したい、神戸に骨を埋めたいと、既に生前に墓も建立し父母や妻の納骨もすませている。

そこで、嫁いだ娘さんが喪主となり遺言通り神式で葬儀を執り行い本日を迎えた。嫁いだ娘さんたちの家族親族約二十人が参列し、各位玉串を捧げ故人の冥福を祈ったが、可愛がられた孫さんの涙に改め故人の家族に対する愛情が偲ばれた。

平成二十四年五月

例大祭と神幸式齋行

十七日午後六時からの例祭には、区内神職のご助勤奉仕により、総代始め氏子崇敬者二十六名の

参列のもと、例年通り巫女による神前神楽も奉納して厳肅に齋行した。後、会館二階にて神戸ウイングスタジアム(株)森社長の来賓挨拶を賜り、乾杯、直会に入った。  
二十六日(土曜日)、午前八時より各地区お旅所の入魂修祓式を齋行し、午後一時半より地区総代・氏子



着飾ったお稚児さん

役員・自治会関係者の指導により、子供みこし四基が神輿唄を声高らかに唄いながら氏子内を巡幸した。

二十七日(日曜日)の例大祭最大の神事である神幸式は、過去三年間連続で、インフルエンザ発生や雨天のため中止となっていたが、本年は五月晴れのもと賑々しく齋行した。

午後二時より兵庫区笠

松通七丁目の片田貴之君(二十歳)扮する猿田彦の勇壮な踊りに続き、本年より新調した直垂を着

装の五人の総代や、化粧をした六名のかわいいお稚児さん、和田岬小学校生徒達の直垂装束の神宝持役十四名、吉田中学校生徒三十名による本神輿上げ役、化粧をした宮司太刀持役である兵庫区吉田

町一丁目の大村和輝君、更に各地区子供みこし四基、総勢約二〇〇人の神幸式大行列が出発し、約二時間半かけて氏子内を巡幸した。

午後六時から、会館二階にて神幸式奉仕三地区・猿田彦会員あわせ氏子約六十名の出席による合同直会が開催され、三年ぶりに無事神幸式が齋行できた喜びで盛り上がりつつあった。

尚後日、御崎本町一丁目の寅丸氏より、兄弟で本神輿昇上げ役と神宝持役をご奉仕したところ、二人分の記念の神幸式集合写真を頂き良い記念となりましたとの御礼の手紙を頂戴した。

平成二十四年六月

氏子崇敬者親睦旅行

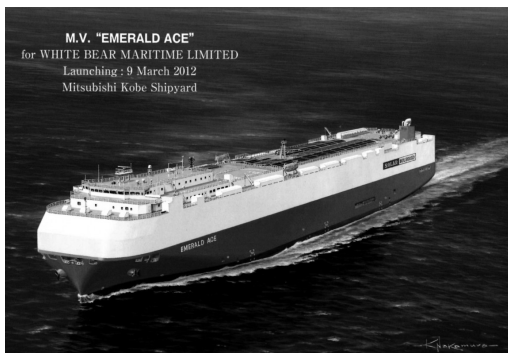
十日、当社禰宜を含め氏子崇敬者二十九名の参加のもと、京都府舞鶴市に鎮座する朝代神社の正式参拝を始め舞鶴・福井県の小浜などを巡る日帰り旅行を実施した。

朝代神社は白鳳元(六六一)年九月に兵庫県淡路島の伊弉諾神宮から奉遷鎮座したのを創建とし、約一三五〇年の歴史があり、舞鶴の産



朝代神社前での記念写真

土神として「朝の参りは朝代さまよ」と「舞鶴小唄」「舞鶴風流音頭」などにも歌われ親しまれている神社である。御殿では禰宜の玉串拝礼に続き、参加者代表の高田総代に合わせ参加者一同が拝礼を行った。後、会館にて湯茶の接待を受け、西村宮司の神社由緒などの講話を拝聴した。次に終戦後の旧ソ連・中国などの大陸からの引揚者の様子やシベリアの抑留生活写真などを展示した「舞鶴引揚記念館」を見学し、舞鶴ホテルで丹後の海の幸の昼食をとり、福井県の小浜に移動、遊覧船にて奇岩・洞門の織りなす蘇洞門めぐりを満喫



記念ポストカードの「エメラルドエース」船

した。更に若狭塗の箸研体験をしたが、なれぬ手つきで苦戦していたようであった。後、昨年のNHK大河ドラマ「お江」の姉であるお初（小浜藩主・京極高次の妻）建立の常高寺を参拝、江戸時代のお初肖像画や書院障壁画を拝観して無事帰神した。

**自動車運搬船神棚入魂修祓式齋行**

二十八日、三菱重工(株)神戸造船所で建造された船主の(株)商船三井、運航主のエム・オー・エル・シッパマネージメント(株)の「エメラルドエース」と命名された自動車運搬船の神棚入魂修祓式を齋行した。

この船は、全長約二〇〇mで十二層のデッキには乗用車五、一九七台搭載可能で、また甲板に太陽光発電パネルを搭載したハイブリッド自動車運搬船である。

神事には船長・造船関係者の参列のもと、代表者が玉串奉奠を行い操船運航に事故の無いよう安全祈願した。日本の企業船もしくは外国企業船であつても船長が日本人であれば、このように神棚を設置し入魂修祓式を行っている。

しかし、三菱神戸造船所も造船百年の歴史を積み重ねてきたが、この自動車運搬船を最後に商船建造終了となり、神棚入魂修祓式を御奉仕できなくなつたことは誠に残念である。

**平成二十四年七月**

**夏越祭(夏祭り) 齋行**

十七・十八日の両日、相殿に祀る素盞鳴大神の夏越祭を齋行した。

十七日午後六時からの祭典は日曜日で近隣会社関係者の欠席もあつて、総代・氏子崇敬者二十二名の参列であつたが、例年通り上野順子琉球舞踊研究所神戸支部員による琉球舞踊



茅の輪くぐり神事

二曲(ぬちばな・たんちゃめ)が神前奉納された後、参列者代表が玉串奉奠して祈願した。

更に、境内に設けた「大茅の輪くぐり」神事では、宮司に続き参列者一同が「蘇民将来、蘇民将来」などと唱えつつ左・右・左と三度くぐり夏の無病息災を祈願した。

尚、本年は新聞折込ビラで広報した関係か、神職手作りでの無病息災のご利益ある「蘇民将来の茅の輪守」を受ける参詣者が多くあつた。



神前奉納の琉球舞踊

**平成二十四年八月**

**押絵作品奉納**

当社を崇敬する神道家の北区星和台の兵藤家では、五月に母親が九十八歳で帰幽され神葬祭を執り行い、翌月に五十日・忌明け祭を自宅で齋行した。兵藤家には先祖代々の御霊達が多く奉斎されていた為、すべての御霊をお納めできる新しい御霊舎を新調されては如何かと指示したところ、十一日、改め新御霊舎設置の相談を受けた。



奉納された押絵作品「巫女」

その際、故人は生前約五十年間にわたつて押絵家元・秀峰会に所属し「留女峰」の号を持ち、教授として展覧会に出品するなど数多くの押絵作品を制作していた。その故人の希望もあつて押絵作品の奉納を受けた。作品題は「巫女」で、白衣緋奴袴姿の福顔の巫女が鏡餅を三方に載せて



保護司会の「社会を明るくする運動」  
広報活動

**下町ふれあい夏まつり奉仕**

一日、台風の関係で天候が心配されたが、幸いに晴天に恵まれた地元開催の和田岬校区防災福祉コミュニティ・笠松商店街振興組合共催の「第二十八回下町ふれあい夏まつり」に奉仕した。

平成二十四年九月

神前(?)に運んでいる色紙大の小作品であるが、神社に関わりある画題でもあり、会館広間に掲示した。尚、新御霊舎への御霊奉遷式は、九月の秋季慰霊祭前に厳粛に移遷奉仕した。

街の南から北にかけて大麻(おおぬさ)で、和田岬校区防災福祉コミュニティ役員の本北氏が清めの塩でお祓いを行い、宮司は午後五時からの兵庫区保護司会の「社会を明るくする運動」広報の一環としてパンの無料配布を奉仕し、午後六時から開催されたカラオケ大会の審査員の一人として奉仕した。大会は例年より出場者は少なめであったが、老若男女の元気な歌声に多数の見学者も拍手喝さいした。この審査員には、前述の本北氏と神戸ウイングスタジアム森社長の三人で奉仕しているが、宮司は二十八年前の第一回より連続で奉仕している。またカラオケ大会後には多くの景品が当たるビンゴゲーム大会も行われた。

会場となった商店街には大学生の扮するチンドン屋・南京玉すだれ演技披露も行われ、多くのボランティア夜店も盛会で、訪れた地元民は残暑の夏まつりを満喫していた。

平成二十四年十月

**発電機二千台達成記念安全祈願祭**

十日、三菱電機(株)電力システム製作所の五一四棟工場で、タービン発

電機製作二〇〇〇台達成記念修祓安全祈願祭が斎行された。

三菱電機は前身の三菱神戸造船所内に明治四十一年より発電機の製造を行ってきたが、大正十二年に現在の会社に分かれてからも発電機製作を続け、国内トップメーカーとして海外へも実績を積み上げ、此度はアメリカのウォーレンカウンティ社より依頼された火力発電所のタービン発電機製造が目出度く二〇〇〇台目の区切りの製造となった。そこで、その竣工を祝すと共に出荷安全並びに今後の関係する回転機製造部の繁栄安全、更にタービン発電機の性能とサービス向上に邁進し、世界的事業展開を祈願する祭典となった。当日は、据え置かれた二〇〇〇台目のタービン発電機前に祭壇を設け、製造関係従業員約五〇〇名参列のもと、祭主のシステム製作所山脇所長また来賓である発電機納品先のウォーレンカウンティ社長をはじめ代表者が玉串奉奠祈願した後、発電機前で納品会社への記念品贈呈やくす玉を割つての記念セレモニーも執り行われた。

尚、会場には多数の報道関係者も

訪れ、神事・記念諸行事を取材し、各社新聞に掲載報道された。又、神事を含めた祭典は、動画サイト「ユーザー」にも投稿掲載された。



発電機前での安全祈願祭



銅板寄進案内板



境内の奉賛芳名掲示板

社殿屋根葺き替え事業・銅板  
 (含) 申込・分納・追加  
 御寄進者ご芳名  
 平成二十三年十一月から  
 平成二十四年十月末日まで  
 順不同・敬称略

趣意とお願い

現社殿は昭和三十八年に竣工して、約五十年となります。銅板の寿命は約五十年といわれています。そこで将来銅板屋根の葺き替えを行わなければなりません。

そのような事情により、皆様に銅板寄進(一枚二千元)をお願いいたしております。

社殿銅板屋根にあなた様のお名前を残し、更なる三石大神のご加護により、貴社・貴家の益々の弥栄をご祈念申し上げます。案内申し上げます。

既にご奉納いただきました方々には重ねてのご案内となりましたことをご了承下さい。

新生児命名

平成二十三年十一月から  
 平成二十四年十月まで

シリーズ

社務所・境内紹介

「神功皇后と武内宿禰図」

本品は掛軸で、表装の大きさは縦一九四×横六三cmで、本紙は絹本着色の縦一〇〇×横四九cmである。内容は、神功皇后の他に、誉田別皇子(応神天皇)を抱く武内宿禰が描かれている。描法は穏やかで着色は華美に走らず落ち着いた趣を呈しており、作者の日比野白圭(ひびのはつけい)の和大絵淡彩作風描法が良く表われている明治時代後期の作と思慮される。

多くの「神功皇后図」には仲哀天皇に代わり、朝鮮に出兵したという故事を画題として、神功皇后が鎧を付けた武者男装姿と、同じく鎧を付けた武内宿禰が応神天皇を抱いている構図であるが、本軸は弓矢を背に衣冠束帯姿の武内宿禰が応神天皇を抱き、それを忌衣を着た神功皇后がほほえましく見つめているという武人姿でない構図である。神功皇后が「神の子を産む賢母」という母子信仰と深く結び付いている一面が描かれているように感じられる。



神功皇后と武内宿禰

日比野白圭は、明治時代の大和絵の第一人者で土佐派の画家。名は齋通称は金吾、白圭は号で、別号に竹翁・風声居がある。

白圭は文政八(一八二五)年に尾張藩士間瀬伝蔵の第二子として生まれたが日比野家を継ぎ、九歳で画を竹田景甫に学び、ついで鈴木景山の門に入りさらに森高雅に従って土佐派を修めたが、師の画法に飽き足らず諸派の長をも学び自ら一会派を興した。人物画を得意とし、明治十五年の「絵画共進会」での天覧の際、「元禄風俗の図」を嘉しされ献上し褒状を賜う。常に吾は士なり、画工にあらずと愛國憂世の志を持ち高

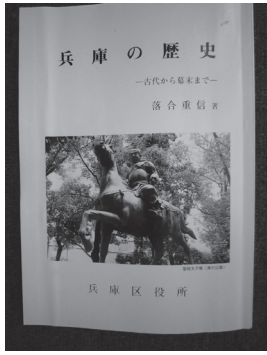
潔な性格であったという。大正三  
 (一九一四)年九十歳で没。死に先  
 だち門人の森村宜稲(もりむらぎと  
 う)らにより「白圭日比野先生之碑」  
 が名古屋八事山に建立された。愛  
 知県美術館に「鶯宿梅之図」(明治  
 四十二年作)が収蔵されている。

シリーズ

書籍に見る三石さん

『兵庫の歴史』

—古代から幕末まで—



兵庫の歴史—古代から幕末まで—

著者落合重信氏によって、兵庫区  
 役所まちづくり推進課より神戸市広  
 報印刷物として平成五年九月に発行  
 された『兵庫の歴史—古代から幕末  
 まで—』は、区長が「まえがき」に、  
 昭和八年に湊西区から兵庫区に区名  
 改称され、区としての歴史は六十年  
 を経るが(当時)、この地域は奈良

時代の昔から歴史の表舞台に登場し、  
 ひいては神戸の歴史と言っても過言  
 ではないと述べている。

神戸史学会・兵庫県地名研究会代  
 表者で、神戸市の郷土史家である落  
 合氏に執筆依頼して本書が刊行され  
 た。

内容はサブタイトルにもあるよう  
 に、旧石器時代から明治六年までの  
 兵庫区の歴史を、紙面の関係上か、  
 簡略にわかりやすく八五頁に纏めて  
 いる。

その第五章、「兵庫の町は鎌倉時  
 代からの「兵庫の繁栄」の条に(二九  
 頁)、「平清盛が経ヶ島を築造し、「中  
 略」この経ヶ島(兵庫ノ津)の繁栄  
 に目をつけたものに、西宮の広田神  
 社がある。広田神社は広くその付近  
 の海域を領していたが、その勢力を  
 さらに新興都市輪田ノ泊(兵庫津)  
 に伸張しようとして、清盛在任時代  
 から海上渡御を企て和田岬に至って  
 いる。広田・南宮・西宮三社の神輿  
 をおいたのが、三石神社の三ツ石だ  
 といわれ、毎年八月二二日におこな  
 われたが、帰路は陸上をとったため  
 に、道々に茶屋ができたことがわか  
 れている。」と記され、「三石神社の

三ツ石」が見られる。

もともと三ツ石は、神功皇后が  
 三ツ石を置いて神占いをしたことに  
 由来するが、『日本書紀』に係わる  
 伝承とされているので、歴史文献  
 (『西宮大神本紀』元龜二(一五七二)  
 年成)に記載確認あることのみを記  
 したものである。尚、広田神社の海  
 上渡御のことは、平成十三年(九月  
 二三日)から復活し齋行されている  
 「西宮神社海上渡御産宮(三石神社)  
 参り」のことである。

さて、落合重信氏は、前述の通り  
 神戸の郷土史家で、神戸に関する『神  
 戸和歌史』『神戸史話』『埋もれた神  
 戸の歴史』『ひょうご地名考』など  
 をはじめ福原京の条里制研究書であ  
 る『条里制』も上梓するなど多くの  
 著書があり、また部落史の研究者で  
 もある。

平成二十五年の神社行事・行事予定

- 一月 一日 歳旦祭(初詣)
- 一月 三日 氏子崇敬者繁栄祈願祭  
(金谷・辻 先生 吟詠奉納)
- 四月二十一日 氏子会総会
- 四月二十八日 猿田彦会総会

- 五月 十七日 例大祭(神樂奉納)
- 二十五日 地区子供みこし巡幸
- 二十六日 神幸式(おわたり)
- 六月 十六日 氏子崇敬者親睦旅行
- 七月 十七日 夏越祭
- (琉球舞踊奉納・茅の輪くぐり)
- 十八日 (茅の輪くぐり)
- 九月二十三日 西宮神社産宮参り
- 十月 二十日 秋祭(天照大神祭)
- 十一月 月中 七五三詣
- 各月 一日 月次祭

印刷所  
 (有)前川企画印刷  
 神戸市兵庫区永沢町二丁目三十一  
 番 電話(〇七八)五七七二・二四八八  
 FAX(〇七八)五七七二・七三二〇